

令和7年8月6日総合計画審議会専門部会A-2

参加者：阿部委員、宿谷委員、高橋委員、平谷委員、中村委員

欠席者：なし

ファシリ：西村さん 板書：河井

障がい者の自立支援と社会参加の促進

○質問

委員

企業側のニーズとありますが、具体的には。

清末補佐

企業の障害者の法定雇用等ある。労働力不足がメイン。

委員

需要と供給のバランスは。

清末補佐

一般就労を探している現状を考えると需要が少ない。

委員

障がい者にとって暮らしやすいまちだと思える町民の割合があるが、一般の人が確認できるのか。点字ブロックを敷いた等だと分かりやすいと思うが。

森課長

次期計画に向け成果指標は見直しも検討する。

ハード面での取り組みも検討する。

委員

就労した人数よりも割合が大事では。

森課長

就労したい人を募っているため、その都度分母が変わる。

流動的になってしまうため割合は難しい。

いずれかの手帳持っている人は約1,200人おり、中には通常通り就職している人もおり、実数は把握していない。このことから、割合は難しい。

委員

障がい者雇用をすると補助金出るか。

清末補佐

補助金もあるが大きくはない。ペナルティの方が大きい認識である。

委員

途中で障がい者になったときの就労支援は。

清末補佐

中途の方も変わらずある。

○評価の妥当性

委員 C

振り返りと担当課評価に同じ。

成果指標も進んでいる。

委員 C

成果指標前年よりアップ。

振り返りを見ても前進している。

委員 D

就労は進んでいる。

実際に住んでいる人が引っ越してしまった。

ヘルパーの駐車場が確保できなかったためである。ヘルパーが支援しやすい環境をと考え評価した。

委員 C

目標年度の成果指標が高すぎるが進んでいる。

手帳を持っている人にアンケートを取ってみては。

就労後の労務状況も確認を。

委員 C

質問の回答を聞き、障がい者に十分に対応している。

○今後の取り組みに対する意見

委員

手帳の所有者にアンケートを実施してニーズを確認してはどうか。
就労後の調査も必要ではないか。

委員

ヘルパーが支援しやすい環境を検討してほしい。

森課長

障がい者福祉計画の来年度3年に1度の見直しをする。
今まではサービスを受けている人にアンケートを取っている。
アンケートの取り方は難しい部分があるが、今後検討をしていく。

委員

防災の関係。障がい言葉がしゃべれない人いる。
そういったことの対応も必要では。

清末補佐

手話の派遣はあるが、その人も被災している可能性はある。
筆談等に対応することになると考える。

互いに認め合う地域社会の形成

○質問

委員

権利侵害、消費者被害の記載は施策に関係しないように感じる。
どういう意図であるか。

森課長

人権尊重や財産侵害につながり、関連していると考えている。

委員

世代間格差についても触れては。高齢者が優遇されているということに対しては。

森課長

簡単には言えないが、優先度をつけて考えている。総合的に判断をしていく。
その都度都度考えていかなければならない。

委員

外国人実習生の生活環境の把握は。

河井

問い合わせ等もなく、実績は不明である。

委員

災害時の対応課題については。

河井

事業所にも協力を求める。

○評価の妥当性

委員 C

成年後見制度の連携を評価。

委員 C

成果指標が前進している。

委員 D

地区の集まりでPTAの母の会がなくなったら、女性の一部をPTAの要役に、となっていたが、話がなくなった。女には任せられないという意見が多かったよう。

そういった場面を見ると男女共同参画には感じない。

ホットボイスは個人の誹謗中傷は載せないことになっているが、載せており、互いに認め合う地域社会とは感じない。

委員 C

成果指標を見て判断。

ただし、成果指標の差別や人権侵害が無いまちについては、顕在化すと事件等になる。見えづらさがゆえに、ポイントが高くなるのでは。

委員 C

全体的な文章を見て判断。

成果指標も上がっている。

ただし、住民意識調査の数値については、アンケートの対象者、回収率など毎回違う。

総括は昨年と一緒だったが、担当課評価で取り組み内容が分かり評価。

○今後の取り組みに対する意見

委員

後見人が現状充足していると感じない。

高齢化に伴い依頼者の増加も見込まれることから、市民後見人の確保をお願いしたい。

委員

子育て中の女性、時間が取れない。

東京では、家政婦を雇うことに支援をしている。

ロボット掃除機などの助成で女性の時間を作り活躍の場を作れないか。

委員

ハラスメントについては、言い出せない女性、当事者は多いのでは。

役場で、相談窓口を作っては。

委員

地域社会の形成については町内会の活動と重複する部分があるので協力してはどうか。

男女共同参画社会については、学生の時大きな差が出ていないが、社会に出るとそうで

はない。社会構図根本を替えていかなければ。

外国人の増加が見込まれる。外国人の対応を検討しては。

委員

性別の違いで男女の体格など差はどうしても出来てしまうと考える。

障害や、環境なども当然変わってくる。それを埋めることが大事。

子どものうちから認識を変えていくことが必要ではないか。

ハラスメント、DVだとかについてマネジメントシートで触れているところが少なかったことが残念。上の世代の考え方が変わらなければならないと考える。

今は事業所やハラスメントや男女共同参画について、役場が研修会など率先してやっていくことが重要だと感じる。

高齢者福祉の充実

○質問

委員

施策の達成状況に40歳から60歳の低いと記載があるがなぜか。
年金等下がることが見込まれるが対策は。

課長

住民意識調査の自由記載欄で、車を手放したときに、交通機関など不安があるというところから記載。
年金の対策は難しい。

委員

成果指標の、やりがいある趣味や運動、仕事に取り組んでいるとは、当事者の意欲や経済的な問題があるが、具体的にどんなことをやっているのか。

久保課長

民生員や町内会の役員をと昔はしてきたが、定年が65歳になり苦勞している実感がある。必要な方には、問い合わせをいただいた時に紹介しており、介護状態にならないようにアプローチしている。

○評価の妥当性

委員 C

担当課評価で、介護人材の確保がこの段階できているため。

委員 B

成果指標③の割合が非常に高い。
自分の祖父祖母も芽室町に最期までいた。
周りの方も芽室町に呼んでいる方も多ことから評価。

委員 C

成果指標が増加。
ただし②は下がっているが福祉の満足度が上がっていると感じる。

委員 C

マネジメントシートの内容が、文章の内容は昨年と比べあまり変わっていない。
職員数が増加しているわけでもなく、生活に直結する事業なので、やめることもできない。

その中で、新たな事業に取り組めないのは理解できる。

だが、成果が増加しているため、内容の充足等が行われたと考えCと評価。

委員 B

成果指標が目標年度を①, ③クリアしている。施策の達成度もこの延長でできるとある。

振り返りの内容が非常に実感している。

○今後の取り組み

委員

退職後の生活について、体が悪くなって福祉サービス利用社会と結びつくことが多いと感じる。健康なうちは趣味だとかで、地域コミュニティに出て楽しく生活をすればいいと思うが、中にはコミュニティに出たくない人もいる。

新型コロナウイルスで途切れた交流を戻すことが重要だと感じて、外に出たい人をサポートするのが大事。施策の課題認識に書いてある潜在的にいる支援の必要な方の支援が大事だと感じた。

委員

老後を芽室で生活するために戻ってきた。

心筋梗塞で倒れたが近所の人が助けてくれたり、山村留学の親ヘルパーの人も移住したいと言っている。

委員

子育て充実で芽室に移住したが、老後のことを考えていなかった。

委員をやって福祉の充実を実感したため、老後のPRで住民も増えるのでは。

委員

人口が減って高齢者が増加していくと予想している。

健康で住み続けられることが重要。

地域交通が衰退していく中で、タクシー運賃助成は良いが、高齢者だけで良いのか。

人口が減ると介護人材も減ると予想しており、介護職員に芽室を選んでもらえることが重要では。

委員

介護サービスを維持できるよう今後も維持充実を。

サービス体制の維持もお願いしたい。

久保課長

介護保険のサービスの維持は特に力を入れている。

介護人材確保は継続し取り組んでいく。

介護予防の充実についても引き続き取り組む。

高谷補佐

昨年度から、ケアネット芽室発足。芽室で働くことの魅力に取り組んでいる

危機感をみんながもってもらうために、若い世代にもアプローチしていこうと考えている。

委員

入浴施設芽室町に無いので、温泉があるとうれしい。